





# 2024年度（令和6年度）ふくやま文化ゾーン情報（予定）


※都合により日程・展覧会名称等を変更することがあります。


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>ふくやま美術館</b> TEL(084)932-2345 〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－所蔵品展／一般310円（250円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※所蔵品展・特別展ともに高校生以下無料 	<b>特別展</b> <b>イタリアと日本の前衛</b> <b>－20世紀の日伊交流</b> 4月6日(土)～6月2日(日) 本展は、20世紀イタリア美術に焦点を当て、同時代の日本がどのようにそれを受け入れていったのかを探る試みです。当館のコレクションの基礎となる20世紀のイタリア作家と日本作家の交流関係に着目し、その人間関係を紐解きながら、作品と資料約100点を通して、日本からイタリア美術を見つめなおします。			<b>特別展</b> <b>魔法の美術館リターンズ！</b> <b>－見てさわって遊ぶ 超体感ミュージアム</b> 7月16日(土)～9月29日(日) 不思議な光とアートの世界、福山へ再上陸！あなたが一歩足を踏み入ると、まるで自分が魔法使いになったかのよう。指先を自由に動かすと一面に花畑が表れるなど表情を変える作品と出会い、体験ができます。見て、触って、直感的に楽しめる内容です。魔法のような体験が、みなさんをきつとワクワクさせることでしょう。			<b>特別展</b> <b>ふくやまの仏さま</b> <b>－国宝明王院本堂本尊「十一面観音菩薩立像」</b> 10月12日(土)～12月15日(日) 前期：～11月10日(日) 後期：11月12日(火)～ 今年は、国宝明王院本堂の本尊「十一面観音菩薩立像」（国指定重要文化財※後期展示）が菩薩の縁数により、33年に1度の御開帳を迎える特別な年です。これを記念して納町安国寺「木造阿弥陀如来及び両脇侍立像」（国指定重要文化財）はしめ、福山市内に安置されている仏像、仏画、法具などの工芸品、資料あわせて約80件によりご紹介します。			<b>特別展</b> <b>神坂雪佳</b> <b>－つながる琳派スピリット</b> 2025年1月25日(土)～3月23日(日) 「琳派」は、江戸時代初期の本阿弥光悦、俵屋宗達に始まり、江戸中期の尾形光琳とその弟乾山、さらに江戸後期の酒井抱一、鈴木其一らにより受け継がれてきました。明治から昭和にかけて京都で活躍し、「光琳の再来」とも称された神坂雪佳(1866-1942)は、琳派に傾倒し、身の回りを美しく飾る意匠(デザイン)を生み出した図案家・画家です。本展は、装飾性豊かな琳派の美の系譜をたどりながら、約80件の作品によりマルチアーティスト・雪佳の多彩な活動を紹介します。		
	<b>福山市美術展覧会</b> 前期:6月12日(水)～16日(日) 後期:6月19日(水)～23日(日)			<b>第54回世界児童画展</b> 7月26日(金)～8月4日(日)			<b>秋季所蔵品展 形のユーモア－おもしろ彫刻大集合！</b> 10月3日(木)～12月15日(日)			<b>冬季所蔵品展 穴をのぞく／むすんでひらいて、またむすぶ</b> 2025年1月2日(木)～13日(月・祝)		
	<b>春季所蔵品展 レアリスム－「労働」のある風景</b> 4月3日(水)～6月23日(日)			<b>夏季所蔵品展 山水と風景－遠近表現の東西</b> 6月27日(木)～9月29日(日)								

<b>ふくやま書道美術館</b> TEL(084)925-9222 〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－所蔵品展／一般150円（120円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※高校生以下無料 	<b>福山市美術展覧会</b> 前期:6月12日(水)～16日(日) 後期:6月19日(水)～23日(日)			<b>一緒に古代古文字展</b> 8月1日(木)～8月18日(日)			<b>E T O をかく2025新春展</b> 1月2日(木)～17日(金)			<b>ふくやま書道美術館臨書展</b> 1月22日(水)～2月9日(日)			<b>ふくやまバラの書道展</b> 2月14日(金)～3月9日(日)		
<b>春の所蔵品展</b> <b>「これなら読める－漢字かな交じりの書」</b> 4月5日(金)～6月8日(土) 前期：～5月6日(月・休) 後期：5月10日(金)～ 現代の「漢字かな交じりの書」は、草書や変体かなを使わず、日常的で身近なものを素材とした表現で、書の一分野として親しまれるようになってきました。漢字、かなの書家たちも、それぞれの分野での基礎の上に立って、言葉の持つイメージを大切に、漢字とかなの調和を図った作品を発表しています。作品に書かれた語句を読み味わいながら、筆者の思いと対話してください。	<b>夏の所蔵品展</b> <b>「こんなにかがう！？線、形、色」</b> 6月28日(金)～8月25日(日) 書作品を目の前にした時、「読めない」とか「わからない」と感じたことはありませんか。確かに、書作品は文字をモチーフとしているため、読んで味わう一面をもっています。しかし、書を楽しむ方法は、作品に書かれた内容を読むだけではありません。本展では、筆の線や文字の形、墨の色などから作品にアプローチすることを試みます。			<b>秋の所蔵品展Ⅰ</b> <b>「風花雪月－書画にみる中国風情」</b> 8月30日(金)～10月20日(日) 風はひと処にとどまらず、花も雷から花弁が落ちるまで変化し、雪は解けると無形に、月は動き姿をかえます。美しい形容の「風花雪月」という言葉は、実は夢うつつろいやすいものようです。本展では中国書画から「風花雪月」の言葉に合う作品を選び展覧します。書画に描かれたモチーフから作家が描きかけた意図を解き、美しさの奥にある中国絵画独特の風情を感じていただきます。			<b>秋の所蔵品展Ⅱ</b> <b>「かなの巨匠－桑田笹舟・高木聖鶴」</b> 10月25日(金)～12月15日(日) 福山市名誉市民の桑田笹舟(1900-1989)と、総社市出身の高木聖鶴(1923-2017)は、日本の書壇を牽引し、かな書の発展に多大な功績を残しました。二人とも、かな書の頂点とも言える平安期の古筆を徹底的に研究し、そこから得た技法をもって、それぞれに個性豊かな独自の書風を打ち立てました。両巨匠の筆の舞を紹介します。			<b>冬の所蔵品展Ⅰ</b> <b>「一字千金 心にかざる書」</b> 2025年1月2日(木)～2月9日(日) 「一字千金」とは、一字の価値が千金に当たるほど非常に優れた文字や筆跡という意味です。本展では当館選りすぐりの作品を展示します。日本の古筆の名品を収めた手鑑「あし選」や、中国の王羲之、張璠、呉昌碩などの作品を展覧します。これらの作品は書かれた後、人から人へ受け継がれ、時代を経ても輝きつづけ、見る人の心を魅了します。そんな一字千金の書をお楽しみください。			<b>冬の所蔵品展Ⅱ</b> <b>「ともに見る書画－愛好家たちのまなざし」</b> 2025年2月14日(金)～3月30日(日) 当館が所蔵する書画作品は、どのような人の眼に触れ、いかに伝わってきたのでしょうか。本展では、作品本体のみならず、歴代の様々な人物が作品を見た際に記した付属資料を、ともに紹介します。愛好家たちの視点を通して作品を見ることで、新たな一面に気づくことがあるかもしれません。時を越え、愛好家たちと一緒に書画鑑賞をしてみませんか。		

<b>ふくやま文学館</b> TEL(084)932-7010 〒720-0061 福山市丸之内一丁目9番9号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－常設展／一般310円（250円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※常設展・特別展ともに高校生以下無料 	<b>特別企画展</b> <b>開館25周年記念</b> <b>ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ</b> 4月19日(金)～6月23日(日) 幸運な人だけがたどりつける、ふしぎな駄菓子屋。店主・紅子がすすめる駄菓子は、どれもその人にぴったりのもの。でも、食べ方を間違えると……。はたしてその駄菓子は幸運を呼ぶか？はたまた不幸をまねくか……。子どもから大人までを虜にする児童書「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」の世界を多彩な資料で紹介する展覧会です。			<b>特別企画展</b> <b>開館25周年記念</b> <b>生誕110年 木下夕爾 詩と俳句</b> 9月13日(金)～11月24日(日) 終生福山を離れることなく、薬局を営みながら、詩作、句作をつづけた木下夕爾は、1914年（大正3年）に深安郡上岩成村（現・福山市御幸町）に生まれ、本年2024年（令和6年）は生誕110年という節目の年にあたります。本展では、直筆原稿で味わう木下夕爾の詩・句、教科書の中の夕爾、批評、論説で語られた夕爾、井伏鱒二との交友など、多様な視点から、木下夕爾の業績をたどります。			<b>特別企画展</b> <b>開館25周年記念</b> <b>生誕130年 福原麟太郎 翻訳の世界</b> 12月20日(金)～2025年3月2日(日) 福原麟太郎は1894年（明治27年）に現在の福山市宮前町に生まれ、本年2024年（令和6年）は生誕130年という節目にあたります。福原麟太郎は、英文学者として日本の英文学界を長くリードするとともに、随筆家としても活躍しました。福原の随筆は、英国風の随筆文学を日本の風土に開花させたものとして、高く評価されています。本展では、福原麟太郎の翻訳作品に焦点をあて、福原の心をとらえた英文学の世界を展覧します。				
<b>常設展 「福山市および近接市町村ゆかりの文学者たち」「井伏鱒二の世界」(通年)</b>											

<b>福山城博物館</b> TEL(084)922-2117 〒720-0061 福山市丸之内一丁目8番 ●開館時間／午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末 ●入館料／一般500円（400円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※高校生以下無料 	<b>春季テーマ展</b> <b>兜－その様式と美</b> 4月3日(水)～6月23日(日) 兜は、本来戦場において命を守るために作られてきたものでした。戦国時代に入ると、武将の美意識や宗教観が反映された、変わり兜、が流行するなど、兜製作の目的は変化を見せます。それらは時に相手を威圧し、時に戦場に彩りを与え、なかには決して実用的とは言えないものもありました。今回は、そういった兜のデザインの変遷を紹介します。			<b>企画展</b> <b>武家のお仕事</b> 6月28日(金)～9月23日(月・祝) 泰平の世を迎えた江戸時代では、武家にも書・画・歌をたしなむなどの教養が求められました。この度は、福山城博物館が所蔵する藩主にまつわる作品とともに、市内寺社仏閣や家臣団への下賜品をまじえて公開します。			<b>秋季特別展</b> <b>幕末、激動の福山藩～その破～</b> <b>「青年宰相 阿部正方」</b> 9月28日(土)～11月17日(日) 福山藩阿部家9代藩主・阿部正方は兄正教の早世により、14歳で家督を継ぎ、16歳で京都守護となりました。第1次・第2次長州出兵では、広島・山陰へ出陣するものの、長州藩が福山に進軍するさなか、病に倒れ、21歳で人生の幕を閉じました。本展では正方の、はかなくも烈烈な人生を紹介します。			<b>企画展</b> <b>新収蔵品展</b> 11月22日(金)～2025年1月26日(日) 福山城博物館は、甲冑や刀剣、藩主や城郭に関する文書等の寄附・寄託を多数受けています。このたびは、感謝の意を込めて、近年新たに収蔵した資料を公開します。			<b>企画展</b> <b>生誕300年記念</b> <b>福山藩阿部家三代藩主・阿部正右</b> 2025年1月31日(金)～3月30日(日) 2025年は福山藩主・阿部正右が誕生して300年の節目の年にあたります。2代正福から家督を譲り受けた正右は、奏者番から社奉行、京都所司代と出世を重ね、福山藩阿部家で初の老中に就任します。本展では、その後何人も老中を輩出する阿部家の礎を築いた正右について紹介します。		
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

<b>福山市人権平和資料館</b> TEL(084)924-6789 〒720-0061 福山市丸之内一丁目1番1号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●入館料／一般100円（80円） ※（ ）内は20名以上の団体 ※高校生以下無料 	<b>企画展</b> <b>「子どもの権利条約」</b> <b>～戦禍のウクライナ写真展～</b> 4月14日(日)～6月30日(日) 今年は、日本が子どもの権利条約を批准して30年目の節目の年になります。折しも、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの紛争が勃発し、多くの子どもたちが亡くなり、連れ去られるなど、子どもの人権が根底から破壊される状況が続いています。ユニセフとウクライナの就学前学校から提供された現地の写真を基に子どもの権利について今一度考えていきます。			<b>企画展</b> <b>「戦没オリンピック」</b> 7月7日(日)～9月16日(月・祝) 三次市出身で、1976年のモントリオール五輪女子走り高跳びに出場した曾根幹子さんは戦没オリンピックの調査を始め、1920年のアントワープ五輪から1936年のベルリン五輪まで出場した36人を確認しました。召集令状が届き、次のキャリアへ踏み出すことができなかった戦没オリンピックの存在を記憶にとどめるとともに、ウクライナをはじめ現在なお多くの国で戦争に巻き込まれているオリンピックに思いをはせ、平和の大切さを改めて考えていきます。			<b>企画展</b> <b>「絵本『母と子の八月八日』原画展」</b> 9月20日(金)～11月24日(日) 「母子三人像」は、空襲の翌朝、犠牲になった母子3人の悲惨な姿を目撃した市民の証言をもとに、全ての被災者を象徴化した制作された慰霊の像です。それを題材に作成された絵本「母と子の八月八日」を展示することにより、子どもたちと、戦争の非情さや虚しさ、生命の尊厳や平和などの思いをあらためて共有していきます。			<b>企画展</b> <b>「ふくやま人権・平和フォト作品展」</b> 12月1日(日)～2025年1月13日(月・祝) 日々の中で、一人ひとりの人権が大切にされ、心豊かに活動している瞬間や、平和な社会を表現する写真を募集し、誰もが参加できる「人権週間」のイベントとして展示します。			<b>企画展</b> <b>「被爆建物『旧陸軍被服支隊』写真展」</b> 2025年1月19日(日)～3月23日(日) 最大級の被爆建物と言われる旧陸軍被服支隊。その保存に向けて、国は「国の重要文化財」に指定しました。被服支隊は、1914年に建設され、現存する鉄筋コンクリートの建造物としては国内最古級のものとなり、原爆投下直後は臨時救護所になるなど歴史的価値が高いと評価されました。企画展を通して反戦・非核の思いを強くするとともにその活用についても考えるきっかけとしています。		
--	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

<b>広島県立歴史博物館</b> TEL(084)931-2513 <b>ふくやま草戸千軒ミュージアム</b> 〒720-0067 福山市西町二丁目4番1号 ●開館時間／午前9時～午後5時（入館午後4時30分まで） ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌平日）・年末年始 ●観覧料－常設展／一般290円（220円） 大学生210円（160円） ※（ ）内は20名以上の団体 ※企画展・特別展の観覧料は別に定めます。 ※常設展は高校生まで・65歳以上無料 	<b>春の展示</b> <b>菅茶山のタカラモノ</b> <b>－重要文化財が語る頼春水・山陽との交流－</b> 4月19日(金)～6月16日(日) 「菅茶山関係資料」が重要文化財に指定されて10年となることを記念して、茶山の「タカラモノ」を紹介します。今回の展示では、茶山と親交の深かった広島藩を代表する儒者の頼春水とその子・山陽との交流を、「菅茶山関係資料」の中の様々な「タカラモノ」と頼家に伝わる資料によって紹介し、人間味溢れる人物像を浮かび上げさせます。			<b>夏の企画展</b> <b>名宝が織りなす歴史物語</b> <b>－広島県の国宝・重要文化財Ⅳ－</b> 7月12日(金)～9月1日(日) 広島県の国宝・重要文化財の4回目となる今回の展示では、それぞれの地域・時代を代表する考古資料や神像、仏像、絵巻物、古文書などを通して、それらが物語る広島県内外の歴史を紐解いていきます。また、保存修理や研究で明らかになった新発見も併せて紹介します。			<b>秋の特別展</b> <b>源氏物語の世界展</b> 9月27日(金)～12月1日(日) 紫式部が著した『源氏物語』は、日本最古の長編小説であり、その作品は日本文学の最高峰とも称されています。今回の展示では、紫式部が身を置き、また『源氏物語』の舞台ともなった平安時代の文化に焦点を当て、貴族社会の衣食住を中心にとりあげ、『源氏物語』の世界を紹介します。			<b>早春の展示</b> <b>絵葉書にみるふるさとの近代</b> 1月24日(金)～3月23日(日) 明治時代以降、地域の記録や旅行のお土産として全国各地で刊行された絵葉書は、移り変わる景観や当時の風俗・産業を伝えています。今回の展示では、当館所蔵の戦前期の絵葉書を中心に、絵葉書から見える近代の広島県の姿や人々の暮らしの様子を紹介します。		
<b>通史展示室「瀬戸内の歴史をたどる」(通年展示)</b>												
<b>草戸千軒展示室「よみがえる草戸千軒」(通年展示)</b>												
<b>近世文化展示室</b> 4月5日(金)～6月2日(日)		6月7日(金)～8月4日(日)		8月9日(金)～10月6日(日)		10月11日(金)～12月8日(日)		12月13日(金)～2月9日(日)		2月15日(土)～4月13日(日)		
菅茶山の世界		菅茶山と旅		菅茶山と平田玉穂		茶山マンガからみる茶山の漢詩		菅茶山と国文学		漢詩人菅茶山		
守屋高コレクション		近世の港町と橋の浦		福山城と福山藩関連資料		江戸の風景		江戸幕府と日本地図		菅茶山関係資料と古地図		
								蘭学と地図		近代備後地域の商業資料『備後の魁』と引き札		